

地域の皆様
保護者様

さいたま市立大谷小学校
校長 高崎 芳和

「令和6年度 大谷小学校の教育活動に関するアンケート」 の結果とその考察・改善策

本校では、教育活動の改善や充実を図ることを目的に、今年度も、教職員アンケートによる自己評価をはじめ、児童アンケート、保護者アンケートによる、「令和6年度 大谷小学校の教育活動に関するアンケート」を実施いたしました。また、過日、学校運営協議会委員の方々から大谷小学校の教育活動等について評価をいただきました。

保護者の皆様におかれましては、様々な視点から、これからの本校の教育活動の改善や充実を図るためのご意見を頂戴いたしましたこと、心よりお礼申し上げます。ここに、それらの内容及び結果分析と、改善に向けた具体的方策について皆様に報告いたします。今後、さらに活力あふれるよりよい大谷小学校をつくってまいりますので、皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

1 学校評価の内容

- (1) 児童アンケート結果
- (2) 保護者アンケート結果
- (3) 教職員アンケート結果
- (4) 考察と改善策
- (5) 改善に向けたアクション5

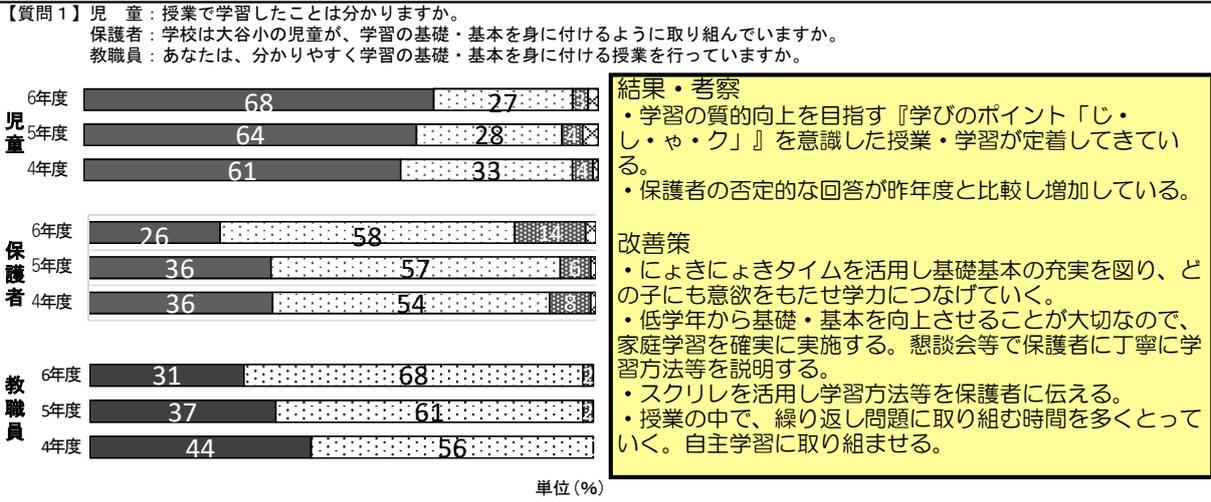
2 結果・考察等

- (1) 回答結果については、今年度は730件(前年度比-92件)であった。
- (2) 「学力アップ(Grit)」については、児童、保護者の評価、教職員の自己評価ともにおおむね高い評価を得ることができた。学びのポイント「じ・し・や・く」を意識した授業やICTを活用した指導方法の工夫を行った。今後も、タブレット等を有効に活用した、反復学習による基礎基本の学習内容の定着を図っていくことが重要である。
- (3) 「ハートアップ(Global)」については、児童、保護者、教職員ともにおおむね高評価であった。いじめの積極的認知といじめ見逃し0、教育相談体制の充実に今後はより力を入れていく。
- (4) 総合的に見ると、概ね高い評価を得ているが、項目によっては、昨年度より、数値が下がっている。学校運営協議会での熟議を重ね、「地域とともにある学校」として学校が家庭、地域と連携・協働して子どもを健全に育てていくための具体的な方策を推進していく。

3 学校の対応について

- ・今年度も「学ぶ楽しさを味わい、自ら学びに向かう児童の育成」を研究主題に学校課題研究に取り組んでいる。「自分で決めて、思考し、やってみる」というスパイラルを中心に、児童の実態に即した学習活動を工夫していく。
- ・さいたま市GIGAスクール構想に沿った指導法を研究し、エバンジェリストを中心に指導内容や指導方法の改善・向上のための校内研修を実施した。これを児童の学力向上につなげていく。
- ・学校評価において、「ハートアップ(Global)」に関する項目は、今後も引き続き高評価を得られるよう、児童を積極的に評価・称賛し、児童の自己肯定感、自己有用感を高められるよう、全職員で児童の心に寄り添っていく。
- ・「いじめはどの学校、学級でも起こるもの」との認識の下、担任を中心とした全職員で児童の些細な異変も見逃さない意識をもち、認知したときは、早期に組織的に解消を目指す。(いじめの積極的認知・いじめ見逃し0)
- ・児童の相談や悩み、保護者の教育的ニーズを汲み取り、児童の健全な育成を推し進める。
- ・コミュニティ・スクールをより推進し、学校の教育活動や取組をさらに積極的に発信し、家庭、地域と連携・協働して、「地域とともにある学校」「コミュニケーション力を高めよう」の取組の充実を目指す。

■1番目…よくあてはまる □2番目…ややあてはまる ■3番目…あまりあてはまらない □4番目…まったくあてはまらない

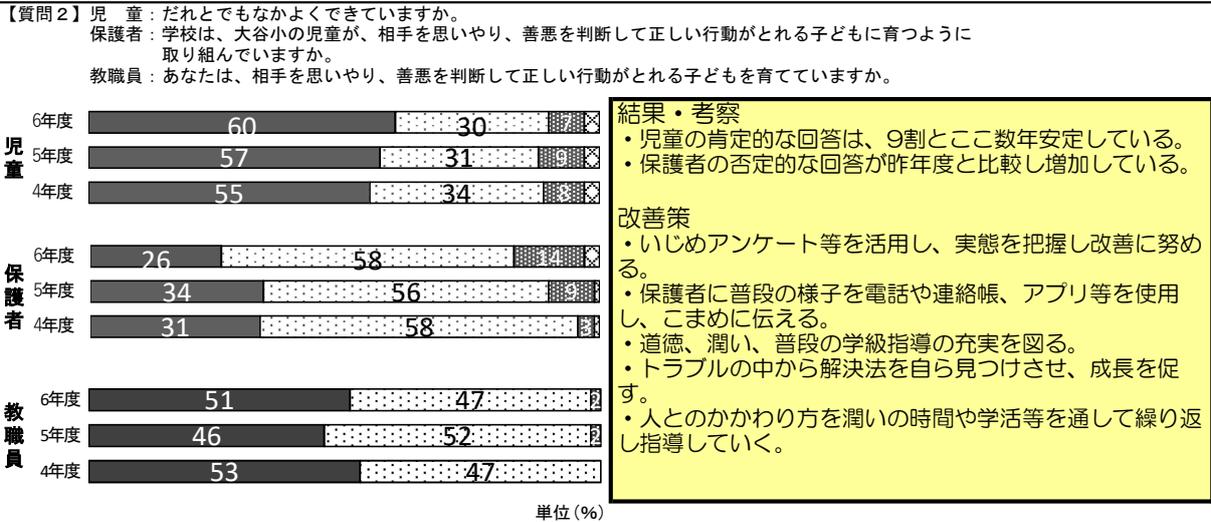


結果・考察

- ・学習の質的向上を目指す『学びのポイント「じ・し・や・く」』を意識した授業・学習が定着してきている。
- ・保護者の否定的な回答が昨年度と比較し増加している。

改善策

- ・によきによりきタイムを活用し基礎基本の充実を図り、どの子にも意欲をもたせ学力につなげていく。
- ・低学年から基礎・基本を向上させることが大切なので、家庭学習を確実に実施する。懇談会等で保護者に丁寧に学習方法等を説明する。
- ・スクリーンを活用し学習方法を保護者に伝える。
- ・授業の中で、繰り返し問題に取り組む時間を多くとっていく。自主学习に取り組ませる。

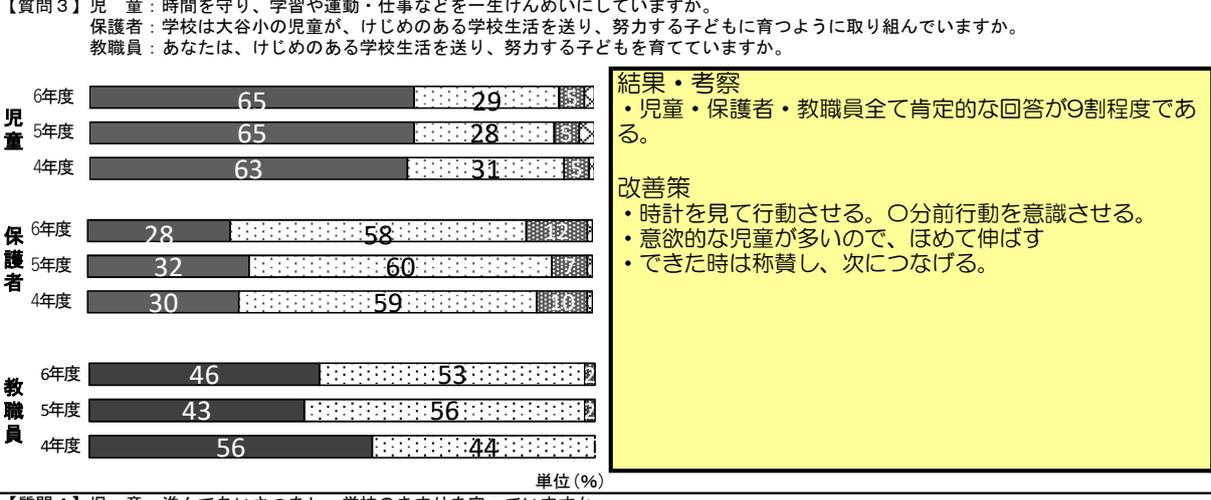


結果・考察

- ・児童の肯定的な回答は、9割とここ数年安定している。
- ・保護者の否定的な回答が昨年度と比較し増加している。

改善策

- ・いじめアンケート等を活用し、実態を把握し改善に努める。
- ・保護者に普段の様子を電話や連絡帳、アプリ等を使用し、こまめに伝える。
- ・道徳、潤い、普段の学級指導の充実を図る。
- ・トラブルの中から解決法を自ら見つけさせ、成長を促す。
- ・人とのかかわり方を潤いの時間や学活等を通して繰り返し指導していく。

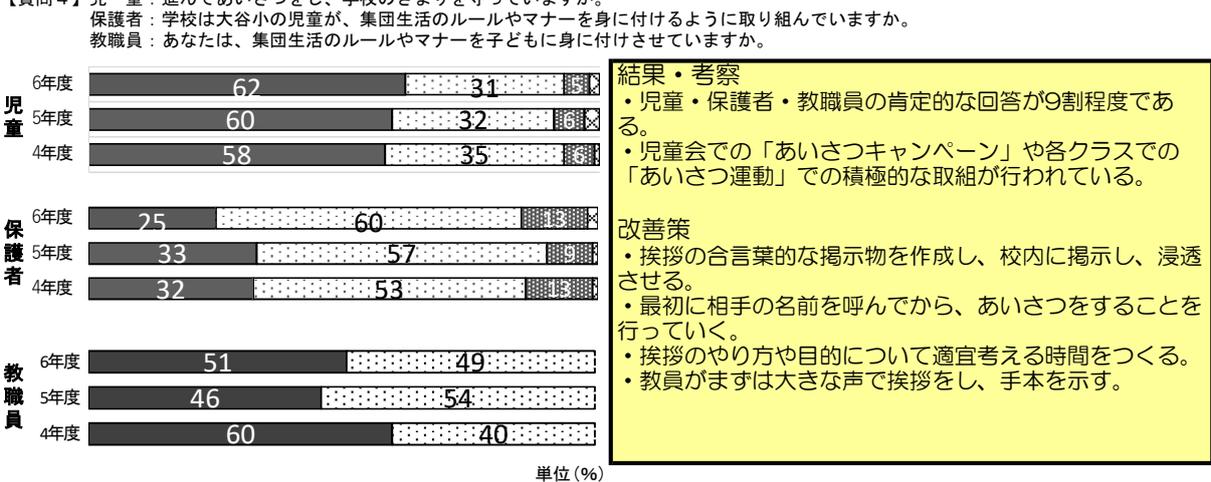


結果・考察

- ・児童・保護者・教職員全て肯定的な回答が9割程度である。

改善策

- ・時計を見て行動させる。○分前行動を意識させる。
- ・意欲的な児童が多いので、ほめて伸ばす
- ・できた時は称賛し、次につなげる。



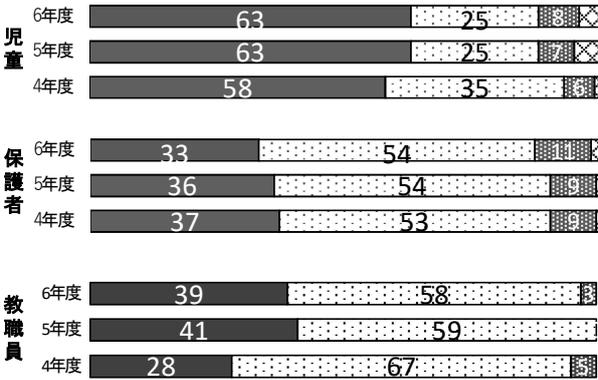
結果・考察

- ・児童・保護者・教職員の肯定的な回答が9割程度である。
- ・児童会での「あいさつキャンペーン」や各クラスでの「あいさつ運動」での積極的な取組が行われている。

改善策

- ・挨拶の合言葉的な掲示物を作成し、校内に掲示し、浸透させる。
- ・最初に相手の名前を呼んでから、あいさつをすることを行っていく。
- ・挨拶のやり方や目的について適宜考える時間をつくる。
- ・教員がまずは大きな声で挨拶をし、手本を示す。

【質問5】 児童：毎日、楽しく学校にきていますか。
 保護者：学校は大谷小の児童が、友達と仲よく生活し、楽しく学校に通うように取り組んでいますか。
 教職員：大谷小学校の子どもたちは、生き生きと学校生活を送っていますか。



単位 (%)

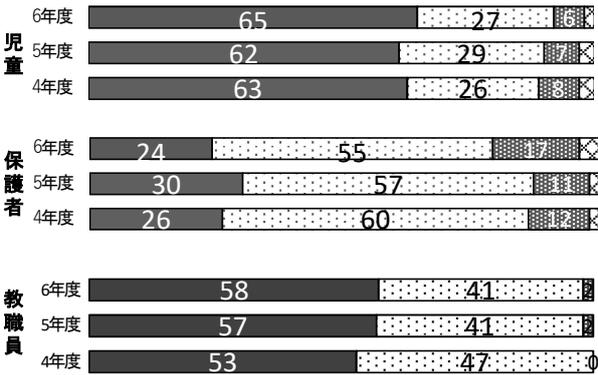
結果・考察

・肯定的な回答は9割前後である。
 ・概ね肯定的な回答だが、学習や友達との関わりで、不十分だと感じる児童が一定数いることが分かる。

改善策

・楽しい授業や行事の充実を図っていく。
 ・不登校気味の児童への見守りや声掛けを徹底する。
 ・学年、学級での所属感と有用感を高められるよう、肯定的な声掛けを意識して行っていく。

【質問6】 児童：児童会や学級でのいじめ撲滅の取り組みをもとに、いじめのない学校、学級にしようと努力していますか。
 保護者：学校は、いじめ防止基本方針のもと、組織的に、積極的にいじめ防止に取り組んでいますか。
 教職員：あなたは、いじめ防止基本方針のもと、組織的に、積極的に指導していますか。



単位 (%)

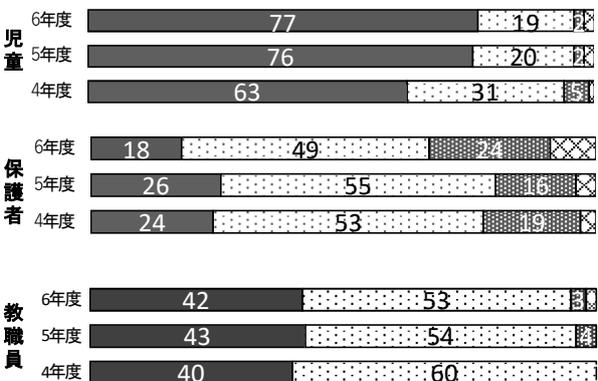
結果・考察

・児童・教職員は肯定的な回答が多い。
 ・保護者の「よくあてはまる」の回答割合が低い・否定的な回答割合が多いことから、具体的な取組の周知が足りないことが推察できる。

改善策

・月に1度のいじめアンケートや全員面談を実施していることを保護者に伝える。
 ・保護者への周知を工夫する。
 ・いじめ撲滅キャンペーン等の取り組みについて学校ホームページでも周知を行う。いじめ再発防止に向けての対応を保護者とも共有していく。
 ・ホームページや学校だよりなどでの掲載を増やす。

【質問7】 児童：きちんとそうじをして、学校をきれいにしていますか。
 保護者：学校は、学習に集中できる、安全できれいな学習環境を整えていますか。
 教職員：あなたは、学習に集中できる、安全できれいな学習環境を整えていますか。



単位 (%)

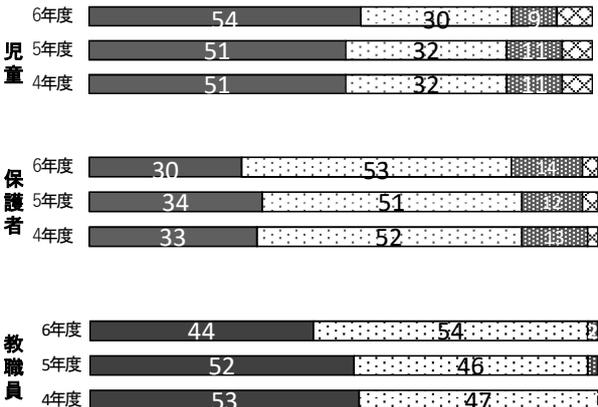
結果・考察

・児童は肯定的な割合が多い。
 ・保護者の肯定的な回答は7割程度であることから、老朽化した学校施設への要望を反映していると推察できる。

改善策

・もくもく清掃へ向けた取り組みを行う。
 ・掃除が終わったとしても、掃除の時間が終わるまでは掃除し続けるように声かけをしていく。
 ・雨漏り、床のタイル等の設備の老朽化の改善を教育委員会等に再度、要望する。
 ・修繕した場所等を学年だよりに載せて周知する。

【質問8】 児童：困ったことや悩みごとを先生に相談したり話したりしていますか。
 (困ったことや悩みごとがあれば、先生に相談したり話したりできますか。)
 保護者：学校は、子どもや保護者の相談や要望に適切に対応していますか。
 教職員：あなたは、子どもや保護者の相談や要望に適切に対応していますか。



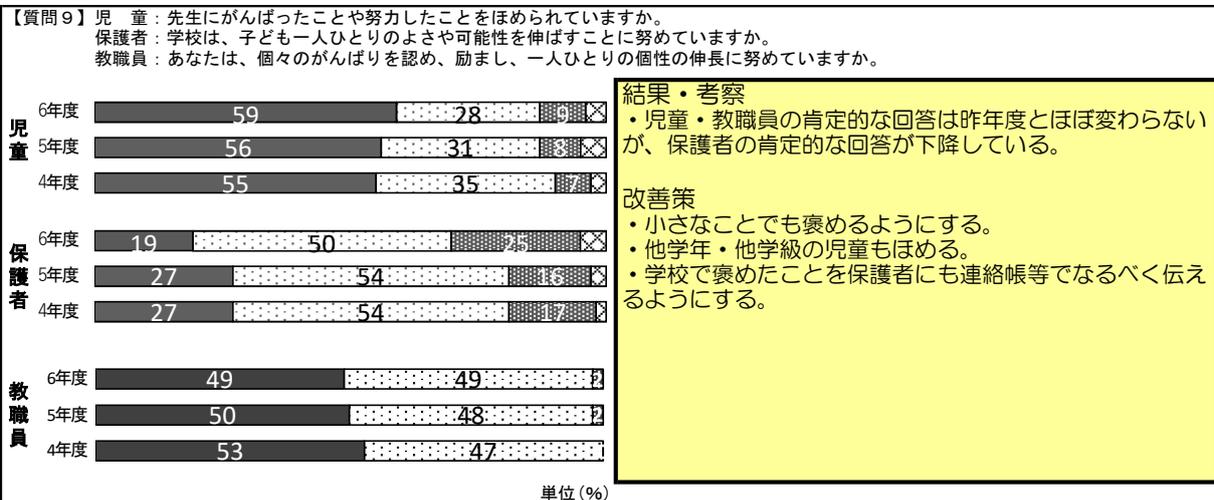
単位 (%)

結果・考察

・児童の肯定的な回答が8割程である。
 ・だいたいの児童は肯定的な回答をしているが、一部児童へのきめ細やかな対応や話をゆっくりと聴く時間が足りないことが推察される。

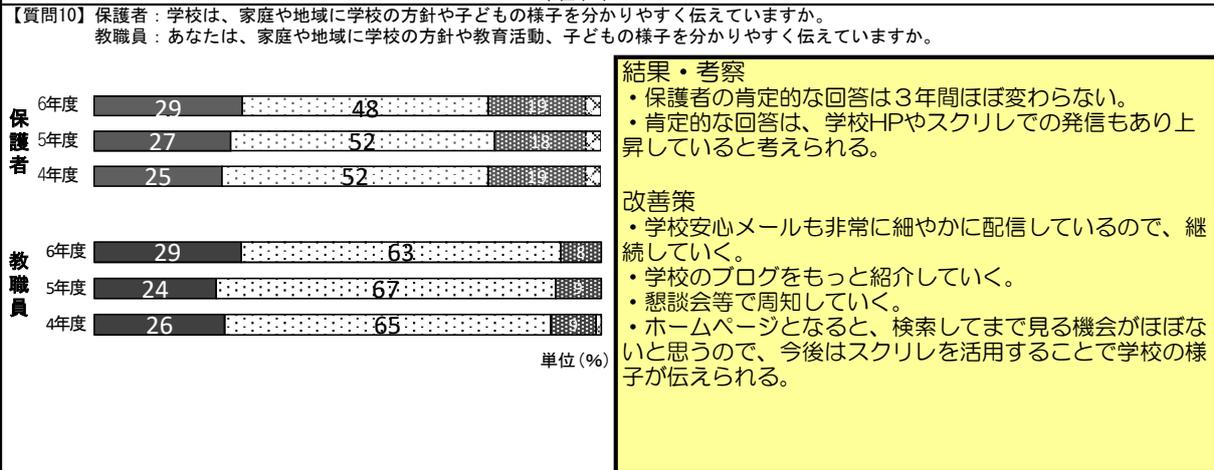
改善策

・担任との信頼関係を築いて、相談しやすい環境作りをしていく。
 ・行事等を精選し、教師と児童のゆとりを増やす。
 ・放課後時間を増やすことで教員に余裕ができる。子どもに接する時間が増える。



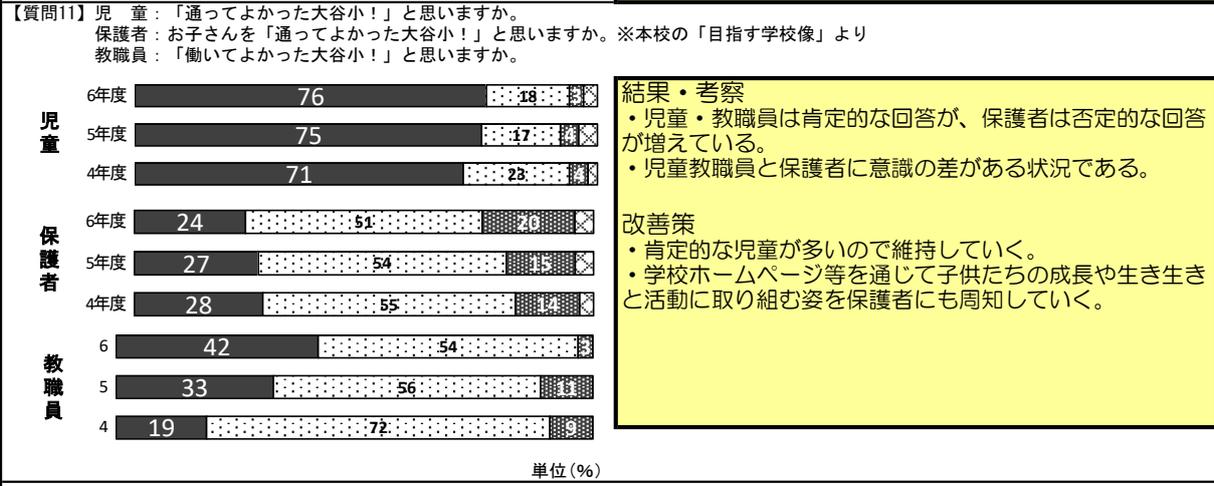
結果・考察
 ・児童・教職員の肯定的な回答は昨年度とほぼ変わらないが、保護者の肯定的な回答が下降している。

改善策
 ・小さなことでも褒めるようにする。
 ・他学年・他学級の児童もほめる。
 ・学校で褒めたことを保護者にも連絡帳等でなるべく伝えるようにする。



結果・考察
 ・保護者の肯定的な回答は3年間ほぼ変わらない。
 ・肯定的な回答は、学校HPやスクリレでの発信もあり上昇していると考えられる。

改善策
 ・学校安心メールも非常に細やかに配信しているので、継続していく。
 ・学校のブログをもっと紹介していく。
 ・懇談会等で周知していく。
 ・ホームページとなると、検索してまで見る機会がほぼないと思うので、今後はスクリレを活用することで学校の様子が伝えられる。



結果・考察
 ・児童・教職員は肯定的な回答が、保護者は否定的な回答が増えている。
 ・児童教職員と保護者に意識の差がある状況である。

改善策
 ・肯定的な児童が多いので維持していく。
 ・学校ホームページ等を通じて子供たちの成長や生き生きと活動に取り組む姿を保護者にも周知していく。

改善に向けたアクション5

- 1 大谷小学校は、子ども一人ひとりのよさや努力のプロセスに目を向け「ほめて伸ばす教育」をより推進し、児童の自己肯定感・自己有用感を高めます。
- 2 大谷小学校は、学習の質的向上を目指す学びのポイント「じ・し・や・く」でつながる学びの充実を図り、児童の学習意欲向上、学力の向上を目指します。
- 3 大谷小学校は、授業や行事、その他教育活動で友達や人、自然、ものと豊かにかかわる体験活動を充実させ、児童の豊かな心をはぐくみます。
- 4 大谷小学校は、家庭、地域と連携を図って「いじめ防止基本方針」「大谷小よい子のやくそく」の共通指導演を行い、いじめの積極的認知、いじめ見逃しの学校を目指します。
- 5 大谷小学校は、スクリレや学校HP等を使用した学校の情報発信や、家庭・地域からの情報収集を積極的に行い、「地域とともにある学校」としてコミュニティ・スクールの充実を図ります。